

盛況！「MELON会員と市民のつどい2003」



6月7日（土）、せんだいメディアテーク 1F オープンスクエアにおいて「MELON 会員と市民のつどい2003」を開催しました。今年はMELONが創立10周年を迎えたこともあり、例年以上に広く一般の方々への参加を呼びかけました。会場、名称なども含めわかりやすい「会員のつどい」をめざした結果、140名余りの参加者が集い、盛況の内に終了しました。ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。



1

MELON 木村理事長が挨拶の中で、「戦争ほどの環境破壊はない」と話し、「また我々が食料を輸入して生きていることが間接的に食糧生産に必要な水を輸入していることと同じで、それ自体が環境破壊につながっている」と訴えました。

2002年度の事業報告・監査報告及び2003年度事業計画提案は、プロジェクターで活動の写真を映写しながら行いました。2002年度の事業報告では、ヨハネスブルグサミットや第3回世界水フォーラムへの代表派遣、各部会のイベントなどの報告がされ、2003年度の事業計画提案では10周年記念活動を中心とした活発な活動計画が理事会より提案され、確認されました。



2

10

ベトナム戦争で散布された枯葉剤は、木を枯らし土壌や水を汚染する自然破壊だけではなく、その後生まれてきた子どもたちに先天的な障害をもたらしています。中村氏は現地取材による写真や、戦争前に撮影したイラクの写真などを映写しながら、これまでに大量破壊兵器を使用した経験をもつ国はアメリカのみであることを訴えました。

さらに、ダイオキシンによる汚染が大量生産・大量消費の社会の中で少しずつ拡大しており、人体に影響を及ぼす危険性を指摘。平和維持と同様に日本でもこうした環境汚染に対する対策が急務であることを強調しました。

「重いテーマをやわらかい口調でわかりやすく話してくれた」と来場者にも大変好評でした。



10年という節目を経て、MELONはさらに幅広い市民の方々に伝えることができる、わかりやすい活動を

目指していきます。今後とも MELON をよろしく願いいたします！！